

LaBYRiNTHランキングシステム・昇格試験規則

平成26年2月1日
(平成27年11月1日改正)

(趣旨・目的)

第1条 LaBYRiNTHテニスサークル構成員のテニス技術の向上及び精神面の強化、参加意欲の高揚並びに各人のテニス競技レベルの客観的把握を行うことを目的とする。

(テニス競技レベル)

第2条 LaBYRiNTHテニスサークル構成員のテニス競技レベルを、上から、ガチ、プチ、ぷちぷちの3段階に分類する。

(試合結果の記録)

第3条 サークル練習前の時間帯などに開催しているガチ、プチでの試合結果を記録する。

(1) 記録対象となるのは、4ゲーム先取以上のダブルスまたはシングルスに限る(3ゲーム先取等は対象外)。但し、5ゲーム先取以上としている試合で時間切れになった場合は4ゲーム以上を先取している側を勝ちとしてカウントする。

(2) 前号の試合結果の記録により勝数や試合数等を明確にすることをランキングシステムと呼ぶ。

(3) 試合結果は、当日中に記録する。後日に記録漏れが判明しても、特別な事情がない限り無効とする。

(1試合のゲーム数)

第4条 時間内に対戦が1周(総当たり)することを目安に、1セットマッチにより近いゲーム数で実施すること。目安は別表1のとおりとする。

(ポイント計算)

第5条 勝ち数をポイントとして計算する。その計算方法は別表2のとおりとする。

(降格等の基準)

第6条 1シーズン[約6ヶ月間]を通じて、8ポイント以上の者は同レベルに残留し、8ポイント未満の者は下位のレベルに降格とする。但し、第8条に該当する場合を除く。

(前回シーズンのポイントの持ち越し)

第7条 前回シーズンで獲得したポイント数10につき、1.5ポイントを次回シーズンに持ち越すことができる。

(降格等の基準の例外)

第8条 次の各号のいずれかに該当する者は、前条の降格等の基準の例外とする。

(1) 1シーズンを通じて試合結果の記録数が5日以内の者のうち、その理由が出産、乳幼児の育児、長期入院・療養、長期出張、遠隔地への転居及びこれらに類するものに該当する者。但し、シーズン終了日の前日から起算して30日前までに申請することを条件とする。

(2) シーズンが終了し降格等の清算をした結果、同レベルの登録者(同条第1項第1号に該当する者及び第3号に該当する者で出席率が著しく低い者は除外する)が11人未満となる場合は、残留条件を満たしていない者の内、ポイント数が上位の者から、当該レベルの総数が11人以上になるまで残留とする。

(3) 過去にJOPまたはJTAのランキングポイントを取得したことがある者。

(4) 第17条によるもの。

(昇格試験)

第9条 上位のレベルへ移行するには昇格試験を受験し、合格しなければならない。但し、第12条に該当する場合を除く。

(受験者の決定)

第10条 昇格試験は誰でも受験することができるが、1レベル2人までとする。受験希望者が3人以上の場合は、前シーズン終了時において、ポイント数が上位の者を優先する。但し、コート数と試験官の余裕がある時に限り3人以上の者が受験できることとする。

(昇格試験の開催日)

第11条 昇格試験の開催日などは、次の各号のとおりとする。

(1) ガチ昇格試験、プチ昇格試験は、およそ2~3ヶ月に1回開催する。開催日は一般社会における各種資格試験等と同様に、幹事側で設定し、雨天中止を除き、日程変更は行わない。

(2) 受験希望者がいない場合は中止とする。

(3) 試験官が揃わない場合は中止とする。(試験官は自分のテニスの時間を割いて受験に付き合うわけであるから受験者側で試験官の参加をお願いすること。)

(新規入会者のレベル分け)

第12条 新規入会者のレベルは、ぷちぷちとする。但し、該当レベル4人以上の公正な判断に基づいた推薦がある時に限り、昇格試験が免除され当該レベルと認定し、その認定日がシーズン途中にある場合は、第16条を準用する。

(受験制限期間)

第13条 昇格試験の受験制限期間を次の各号のとおり設定する。

- (1) 受験し不合格となった者は、試験日の翌日から起算して90日間は昇格試験を受験できない。
- (2) シーズン終了時のポイント計算により降格となった者は、シーズン終了日の翌日から起算して100日間は昇格試験を受験できない。

(試験官の選出)

第14条 昇格試験の試験官の選出は次の各号のとおりとする。

- (1) 昇格したいレベルの者3人を過不足なく揃えること。
- (2) 試験官の希望者が4人以上いるときは、抽選など公平な手段をもって前号の人数にすること。

(昇格試験のルール)

第15条 昇格試験のルールは次の各号のとおりとする。

- (1) 試験官3人と受験者1人により、1デュース後ノーアドバンテージ方式の4ゲーム先取のダブルスを3試合行う。
- (2) 3試合それぞれ異なる試験官とペアを組む。
- (3) 各試合1ゲーム目のサーバーは受験者とする。
- (4) リターンゲーム時において、1デュース後のゲームポイントでは、受験者がリターンをする。
- (5) 試合前練習は、サービス4本のみとする。但し、時間に余裕がある場合はこの限りではない。
- (6) コート使用開始時刻の5分前をエントリー締切時刻とし、遅刻すれば棄権とする。
- (7) コート使用開始時刻ちょうどに5号で規定する試合前練習を開始する。
- (8) 3試合のトータルで8ゲームを取得すれば合格とする。
- (9) 8ゲームを取得した時点及び、8ゲームを取得することができないことが明らかとなった時点で、以降のいわゆる消化ゲームを行わない。但し、時間等に余裕がある場合は、この限りではない。

(合格後のガチ、プチへの参加)

第16条 昇格試験に合格した者は、直ちに昇格レベルでのランキングシステムに参加することとする。但し、次の各号の例外措置を設ける。

- (1) 試験日がポイント算定期間(シーズン)の途中である場合は、その経過した日数を30で除した数をポイントとして付与する(小数点以下は整数になるまで切り上げ)。
- (2) 算定期間の残日数が昇格試験の翌日から起算して90日に満たない場合は、無条件に残留とする。

第17条 第1条から第16条に定めのないことは、適宜、奥野大介が判断することとする。

別表1

1. 1試合のゲーム数の目安

- (1) 2時間4人の場合: 1セットノーアドバンテージ(タイブレークは2アップまで)。または、5ゲーム先取1デュース。
- (2) 2時間5人の場合: 4ゲーム先取1デュース。または5ゲーム先取ノーアドバンテージ。
- (3) 2時間6人の場合: 4ゲーム先取ノーアドバンテージ。
- (4) 3時間4人の場合: 1セットマッチ。
- (5) 3時間5人の場合: 1セットノーアドバンテージ。
- (6) 3時間6人の場合: 5ゲーム先取。

別表2

1. ポイント計算方法

- (1) 日ごとに計算する。但し、対戦が1周した後の試合は計算対象としない。但し、参加者の事前の申し合わせのもと、以降の試合を計算対象としても差しつかえない。
- (2) 勝ち数を+1、負け数を-1、参加ポイント(1日につき)+1として、下記例のように計算する。
(例: 3勝1敗の場合... $3 - 1 + 1 = 3$ ポイント)

2. 異レベル間の合同開催時の特例ポイント計算

- (1) ガチとプチ、プチとぶちぶちの合同開催時は、上位レベルの参加者数から1を減じた数を下位レベルの者にハンディポイントとして、1日のトータルポイントに付与する。(例: ガチ3人、プチ2人、計5人の合同開催時に、プチEさん1勝3敗なら、 $1 - 3 + 1 + (3 - 1) = 1$ ポイント)
- (2) ガチとプチ、プチとぶちぶちの合同開催時は、下位レベルの参加者数から1を減じた数を上位レベルの者にハンディポイントとして、1日のトータルポイントから減ずる。(例: プチ3人、ぶちぶち2人の合同開催時に、プチEさん3勝1敗なら、 $3 - 1 + 1 - (2 - 1) = 2$ ポイント)
- (3) 全敗の場合は、計算結果に関わらず0ポイントとする。
- (4) この特例ポイントは、対戦が1周したときにのみ適用できる。

3. 対外試合ポイント

対外試合の結果を次のようにポイント加算する。

(1)32組以上が出場する草トーナメント(シングルスorダブルス)のAランク以上で次のとおりポイントを付与する。

- 一 3組以上の予選リーグを突破し本選4位以下は1ポイント
- 二 3位は2ポイント(3位決定戦がないベスト4の場合は3位とみなす)
- 三 準優勝は3ポイント
- 四 優勝は5ポイント

※16組以上32組未満が出場する草トーナメントでは、×50%のポイント。但し、予選突破の1ポイントは減率しない。

※BYEは、出場組数としてカウントする。

※Bランクでは、×50%のポイント。

※ブチは、AランクをBランク、BランクをCランクと読み替える。

※ガチとブチがペアを組んだダブルスBランク出場は、いずれも×50%のポイント。

※予選免除者は、本選で1勝すれば1ポイント。本選3位以上は上記に準ずる。

※団体戦は対象外。

※月桂冠カップなど、参加制限がないオープン試合においては、BランクをAランク扱い、CランクをBランク扱いとする。